

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900127		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 京都伏見の家 1号館		
所在地	京都市伏見区深草西浦町2丁目115番地		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着を常に意識して、地域に根差した施設づくりをしています。他施設より安価で生活保護の方々でも入居可能等、広く受け入れられるようにしているのも、その一環です。これからも、介護の質も高めながら充実させていきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690900127-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690900127-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年10月 9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人が地域で自分らしく生きて行けるよう私たちは支援します」と理念に掲げ、自治会の繋がりがや地域行事に利用者が参加するなど意識して地元で馴染めるよう心がけています。近くの公園に天気の良い日に出かけたり、コンビニや商店に出かけ、近隣の散髪屋から訪問をしてもらえるようになるなど、地域との関わりを大切に支援しています。運営推進会議へ出席している家族から要望を受け利用者が役割を担い自信が持てるようになり、利用者の生きがいに繋がるなど、出された意見は職員間で検討しサービスの向上に活かしています。管理者の交替があった中で、世代や経験の違う職員がそれぞれの力を発揮し新たな課題に向けチーム一丸となって前進して行けるよう様々な取り組みを検討し実践に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が地域の中で自分らしく生きていける様に私たちは支援します。この理念を実践しています。	開設時に作られた事業所理念は「その人が地域で自分らしく生きて行けるように私たちは支援します」と謳い、自治会の繋がりや地域行事に利用者が参加するなど意識して地元にも馴染めるよう心がけています。理念は玄関に掲示し意識できるようにしていますが、更にケアの振り返りや確認を全職員と共有する方向で検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と繋がっていけるよう、いろんな方に話しかけたり話かけられたりしながら、日常生活をしている。	町内会に加入し夏祭りや敬老会などに参加し、散歩時には近隣の方々と挨拶を交わしています。コンビニやスーパーで買い物をしたり、また散髪屋が訪問してくれるなど、利用者が地域の中で生活していると思えるような関係作りを大切にしています。近くの教会の聖歌隊の子どもたちが歌を披露しに来てくれることもあり、利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症を理解していただくように運営推進会議で研修を開いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況をプリントレ会議の席上で出席者上で出席者の皆様に意見を述べてもらい向上にいかしている。	会議は、自治会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員などの出席を得て2か月に1度開催されています。事業所の行事や状況の報告と共に意見交換がなされています。地域の知見者からは応援の声が聞かれたり、家族からは他の家族との交流の提案が出され、運営推進会議への家族の出席を呼びかけています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の入居も有り行政との連携などは常にとっている。	相談事や手続きなどで区役所の窓口に出かけ、事業所の様子を知ってもらう機会としています。また区の担当者の来訪もあり、事業所の様子や状況を伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	完全とは言えないが内部、外部の研修などでケアの実践に取り組んでいる。	毎月事業所で行う勉強会の中のテーマに身体拘束をしないケアについてがあり、また毎週法人本部から届く資料を基に朝礼で学んでいます。不適切な言動が見られるときには、職員間で注意し合うようにしています。日中は施錠していますが、利用者が出かけた様子が見られて場合には玄関先に出るなどして気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	完全とは言えないが内部、外部の研修などでケアの実践に取り組んでいる。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で後見人の利用や日常生活自立支援事業の利用をされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明を行い理解をもらい納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ていると思う。運営推進会議の席上で報告等を行っている。	運営推進会議への出席時や来訪時に職員は積極的に利用者の様子を伝え、家族からの意見や要望を聞いています。家族からの意見を受けて、下膳やおやつ作り、洗濯物たたみなど出来る事に力を発揮してもらうなど、サービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて職員の意見や提案をきいている。	ユニット会議やカンファレンスで職員は意見交換をしています。フロア会議で多くの意見が出され、利用者への個別の支援についてはそれぞれの介護計画に反映し、行事や企画への意見には検討が重ねています。休憩時間の分散化についてなど出された意見は、法人にも上げるなど体制の変更を図り、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定や福利厚生などの改正などに、積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり出来ていないが研修等で知り合い交流に結び付く事はある。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	接する時間を多くし、安全、安心を基に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ありのままを伝え家族の方の不安や要望を受け止め、一つ一つ理解していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態をよく観察する。本人と家族の要望を把握しサービス内容を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している家族と考えている。共に生活する関係を理解して頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人家族共に話し合える関係を目指す。その上で本人を支えていく関係を築く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねて来られた友人、知人との関係継続の支援に努める。入居者と友人知人との関係がうまくいくように支援する。	友人の来訪があり一緒に外食を楽しみに出かけられる方がいたり、友人や知人の来訪時にはゆっくり寛いでもらえるよう配慮しています。入院中の家人の見舞いに行きたいと言う要望には、家族にその思いを伝え、実現に向けて家族の協力を得るなど支援につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く暮らせるように支援する。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談も乗っていただける様に心がけます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしくの理念にそったサービスを提供している。しっかり把握し受容していく。	入居にあたって自宅訪問し、利用者や家族から生活歴や病歴、趣味などの聞き取りを行い、思いや暮らし方の希望を把握しています。入居後は日々の生活の中で利用者の様子や気づいた事を記録し、観察する中で利用者の思いを汲みとるように心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりその人の暮らしきた年月の事を傾聴するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態等充分な観察をする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン、モニタリングの把握に努める、変化する様子を的確にとらえ、関係者と話し合いケアプランを作成する。	初回の介護計画は家族も交えた担当者会議を開き、アセスメントや利用者、家族の思いを基に介護計画を策定しています。介護計画は3か月ごとに見直し、見直しに向けてモニタリングと評価を行い、カンファレンスで出された意見や医師や看護師からの情報も反映させています。作成された介護計画は回覧して、全職員で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を忘れずにする、職員間で情報を共有しながら計画の見直しに活かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化が新設され、ニーズに応じて支援し取り組んでいる。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に自治会を通じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせてかかりつけ医の受診や往診に対応している。	入居時にはかかりつけ医を選択できることを伝えていますが、実際にはほとんどの方が協力医にかかられています。2か月に1度受診し、24時間の対応が可能な体制で、何かあれば毎週来ている訪問看護師を通じてアドバイスや指示を得ています。希望者は歯科医の往診や3か月に一度の口腔ケアを受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、月4回の看護職員が訪問している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院との連携はできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と早い段階から話し合いをしている、重度化した時のバックアップの関係は結んでいます。	入居時に事業所の看取り指針に基づいて医療面で出来る事や出来ない事などを伝え、家族の意向を聞くと共に同意を得ています。重度化について具体的な事例がなく、今後に向けて医療との関わりなどを課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回おこないます、消防との関係も常に持っている。	年2回避難訓練は行われており、内1回は消防署の立ち合いを得ています。訓練は昼・夜共に想定し、通報や初期消火、避難誘導などテーマを決めた訓練を実施しています。訓練には利用者もともに参加され、防空頭巾や非常食の準備がなされています。	地域の防災訓練の情報を聞いてみたり、事業所の訓練に近所への声掛けをされることで地域との協力関係を築ききっかけにされてはいかがでしょうか。

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシー確保に努めている、プライバシーを傷つけないよう声掛けしながら対応している	利用者への関わりの中では、目上の人への礼儀を基本と考え接し方を朝礼時に確認合っています。会話時には極力目線を合わせ、上からの目線にならないよう努めています。入浴時にもプライバシーや羞恥心への配慮を心掛けた対応となるよう職員間でも話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でもない事でもじっくり聞き、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを把握し支援している、又、一人一人に合ったペースで声掛けしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	めりはりのある身だしなみを支援している、くつろぐ時、外出時その人と話し合いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しくしていただけるように支援している、その人と職員と一緒に準備、片付けをしている。	食事は配食サービスを利用しご飯、汁物はホームで作り、月2回は昼食を手作りしています。利用者の意見を聞きながら献立を作り、買い物に利用者と共に出かけたり、おやつ作りを楽しんでいます。また、法人からウナギや刺身など、新鮮なものが届けられています。利用者は下膳や食器洗いに力を発揮し、役割を持ってもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた分量でその日の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕、口腔ケアをしています、自力で出来る人と出来ない人の把握をし、その人に応じた口腔ケアを行っている。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立をして頂けるように努めています。	利用者毎の排泄チェック表をもとにパターンを把握し、個々のタイミングに合わせた声掛けや誘導を行う中で失敗を無くすように支援しています。改善はなかなか難しい状況にあっても、現状維持ができるような支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は声掛けにより摂って頂いている。運動は散歩に行ったり、室内にて全員でラジオ体操、歩行運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴で気持ち良く過ごしてもらっている、あまり入浴を無理強いせずその日の体調等を考えながら支援している。	入浴は週3回を目途に午後から入ってもらい、極力同性介助となるよう心掛けています。拒否される方も多く、利用者の様子を観察したり、タイミングや声掛けの職員を変えなど無理強いとならないよう職員間で工夫しています。柚子湯など季節湯を企画し楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何事も強制せずに自由に暮らしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように管理できている、薬の状況については症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やテレビ鑑賞の他、歌を歌うことが好きで毎日CD等を使い歌っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	無理のない程度に近くへ散歩に出かけたり、希望により買い物に同行してもらっています。	天候の良い日には出来るだけ近くの公園までの散歩に行き、2~3人ずつで出かけています。正月には近くの藤の森神社に初詣に出かけたり、桜や紅葉など季節ごとに行事の企画をしています。	

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度のお金は施設で預かっています、希望に応じてお金を使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人に必ず連絡しています、本人の要望も充分聞くようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間づくりはできている、不快や混乱を招かないように配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	共用空間が明るい雰囲気となるよう心がけています。毎月カレンダーを作って壁に飾ったり、季節毎に利用者の様子を写真にして壁に飾り季節を感じてもらったり、その時々 の出来事を思い出す話題作りのきっかけとなるよう工夫しています。温度や湿度の管理を行い、清掃に努め気持ちよく過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいとき、気の合った者同士で楽しく過ごせるように居場所作り出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室もその人らしく部屋作りをしている一人ひとりの使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらい居心地良く過ごされている。	各居室にはベットとエアコンが備え付けられ、収納できる場所を設け、テレビやチェスト、仏壇、ギター、写真、加湿器など使い慣れた馴染みのある物や大切にしている物を持ち込み、家族と配置を考え安心して過ごせる居場所となるよう工夫しています。毎日職員が掃除を行い、床そうじや床のワックスがけなど清潔な居室が保てるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりは出来ている、一人ひとり安全に自立した生活が送れるように工夫し支援していく。		